

## 令和6年度全国剣道指導者研修会（西日本ブロック・高知県）



令和6年度全国剣道指導者研修会・西日本ブロック（主催＝日本武道館、全日本剣道連盟、全日本学校剣道連盟、後援＝スポーツ庁、高知県教育委員会、高知県剣道連盟、主管＝高知県学校剣道連盟）は、10月25日～27日の日程で高知県高知市のCHRESで、講師10名、参加者60名の出席を得て実施された。本研修会は、令和3年度から全面実施された中学校学習指導要領を踏まえ、全国の中学校に剣道が導入され、安全で効果的な指導展開がされるよう全国東西の2ブロックにおいて開催されるもので、10月11日～13日に開催された東日本ブロック（長野県・佐久市）に続いての開催である。

### ■ 1日目（10月25日）

開講式では主催者を代表して、沢登英徳さわとひでのり公益財団法人日本武道館振興部振興課主事兼課長補佐と網代忠宏あじろただひろ公益財団法人全日本剣道連盟会長が挨拶を述べた。

はじめに、藤田弘美ふじたひろみ講師が「中学校保健体育における剣道学習の考え方」をテーマに講義を行った。中学校における剣道の授業の現状、学習指導要領改訂の趣旨を踏まえた剣道学習の方法、剣道学習における主体的・対話的で深い学びの展開例について解説し、生徒が剣道の魅力に迫ることができる授業づくりの進め方として、導入の工夫や対人での学習を仕組むこと、動きのポイントをできるだけ単純化し、生徒の実態に応じて順序良く習得させることを提案した。

続けて、百鬼史訓なまりふみのり講師と軽米満世かるこめみつよ講師が「安全指導・衛生管理」の講義を行った。百鬼講師は竹刀や用具の安全・保守管理が事故を未然に防ぐと参加者に呼びかけ、その他にも安全で清潔な学習の場を確保すること、破損した剣道用具を使用しないこと、剣道用具は衛生的で通気性の良い場所で保管をすることを呼びかけた。軽米講師は、授業内で留意する感染症対策や、熱中症対策について解説した。

### ■ 2日目（10月26日）

はじめに、軽米講師が剣道の歴史と特性について説明を行ったのち、山神眞一やまがみしんいち講師と有田祐二ありたゆうじ講師が「楽しい動機付け・剣道の特性と体ほぐしの運動」の実習を行った。

山神講師は剣道の基本的な動作や攻防を学びながら、生徒が楽しんで剣道授業を行うことのできる導入の方法として、「手のひら攻防」や「剣道じゃんけん」、手拭いを使用したゲームの紹介を行った。



続いて、有田講師からは、新聞紙切りや新聞玉打ちの紹介があった。

有田講師は、新聞紙に切り込みを入れて、切れやすくすることや、新聞玉の投げ方はトスアップにするなど、どの生徒も楽しめる授業づくりのポイントについて参加者にヒントを与えた。

続けて軽米講師の剣道に必要な動きづくりの実習では有効打突の条件として、充実した氣勢、適正な姿勢と打突部で打突位を刃筋正しく打ち、残心あるものであるという気・剣・体の一致について、あらかじめ生徒たちに授業内で説明を行い、意識してもらうことが重要であると述べ、基本的な足さばきや体さばきの動作の確認を行った。

神崎浩講師、井上孝講師、阿部始郎講師の「剣道具のない授業例・木刀による剣道基本技稽古法」の講義では、立礼や座礼などの礼法の指導が行われた。神崎講師は「『礼』とは相手を尊重する日本の伝統的な行動である。授業を通じて礼法を身につけてもらうことは武道の授業の大きな目的の一つである」と呼びかけた。その後、井上講師が木刀による剣道基本技稽古法の指導を行った。

さらに、練習した内容をもとにグループに分かれて課題解決学習の実践を行った。藤田講師は、「教師は、ただ課題を与えて練習させるのではなく、生徒自らに課題をつかませ、見つけ、その答えを探せるような授業づくりを心掛けるべきではない」と参加者に呼びかけた。

休憩を挟んで、神崎講師の「剣道具のない授業例・竹刀による授業例」では、竹刀の構造と名称について確認したのち、素振り、竹刀の打ち方・打たせ方の指導を行った。続けて、佐藤義則講師より、リズムに乗って打つ楽しさを味わうことを目的に音楽に合わせて打ち込みを行うリズム剣道の紹介があった。

次に「剣道具のある授業例」では、まず井上講師より防具の置き方、着装の仕方の説明があった。胴の簡易的なつけ方や手ぬぐいの簡単なかぶり方など、生徒が容易に着装ができるようなヒントを参加者に与えた。続けて防具をつけた状態でその場で打突、一足一刀の間合いでの打ち方といった基本的な技の段階的な指導が行われた。

次に「剣道具のある授業例・ごく簡易な試合」の実習が行われた。参加者は習熟度に応じてグループに分かれて、試合者は互いに

面・小手・胴を打つ。審判3名は気・剣・体と書かれた札を1枚ずつ持ち、それぞれの観点から評価を行う判定試合を行った。



「応じ技」の実習では面に対する抜き胴の指導が行われた。続けて、相手の動きの予測や判断をしやすくするための教材として条件を付けた攻防について指導が行われ、打突部位や攻撃回数を制限して、試合を行う応用的な練習を実践した。最後に剣道具の結束方法の指導を行い、2日目の研修が終了した。

#### ■最終日（10月27日）

はじめに「指導者のインテグリティ」をテーマに神崎講師が講義を行った。インテグリティとは倫理教育であり、高潔さ、品位を意味する言葉である。その向上のためには指導者が選手のインテグリティな行動を明確にすることが重要であり、共に学ぶ姿勢や、可能性を引き出すこと、自分自身がよきモデルとなること、ほめる指導をしていくことが重要だと呼びかけた。

続けて、「3つの資質・能力をバランスよく育む剣道学習を目指して、剣道のよさや楽しさを味わわせるために」をテーマにグループで研究協議を行った。参加者は本研修会で学んだことを、どのように実践につなげるか、剣道の授業における自身が考える課題や疑問に感じる点を互いに話し合い、意見を交換した。

最後に百鬼講師が「剣道を科学する」をテーマとした講話を行った。「打つ」と「斬る」の違いや、竹刀や用具の安全規格について説明し、見解を述べた。

閉講式では沢登主事兼課長補佐が代表者に修了証を授与、軽米講師が講師講評を行った後、網代会長が主催者挨拶を述べ、全日程を終了した。